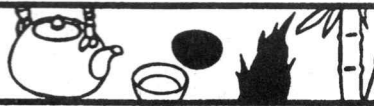


# 読売歌壇



## 小池 光選

指導者の遺影掲げる人々の彫り深き目は何を見ている。

【評】突如はじまったイランへの軍事侵攻。抗議する民衆の、彫り深いまなざしをニュースで見ると、プライド高きペルシャ民族の裔だただでは終わらぬ。なんと愚かな戦争だろう。ピンポンと鳴れば「はい」と二、三回応へて後の動きの鈍し。 仙台市 平野 洋子

【評】誰か来た。大きな声ではいと返事して、それから動き出すのが厄介。よっこいしよと立ち上がり、転ばぬように玄關に出てゆく。老いの日常、とてもよくわかる。 奥州市 佐藤 茂美

「ゴンドラの唄」声低くうたう春の宵 八十路越えても死ぬのが怖い 富山市 杉浦 良子

【評】いのち短し、恋せよ乙女のゴンドラの唄。ふと口に出て、八十路になったじぶんを思う。結句に切迫した迫真力がある。 今日からは過に一度のダイケアへ一番好きな帽子を被り 松山市 夕月 秋人

木末より漏れ来る春日ひとすぢの柱となりて山路を照らす 浜松市 久野 茂樹

隣から聞こえるピアノメヌエット今日こそつかえず弾いてね坊や 芦屋市 宮本 允子

雨の日のれんこん畑見ていますバイトに向かう汽車にゆられて 鳴門市 楠井 花乃

温暖化するめば不足する雪に冬季五輪の行く末おもふ 足利市 熊田 敏夫

ぶらんこを揺らす少女ゆらゆら春の青空暮れてゆくまで 調布市 川久保洋子

老い痴れし母から届く絵手紙の渦巻きひとつだけの哀しさ 東京都 風ノ桂馬

## 栗木 京子選

病床の人へ春をと言ふ吾子の願ひ叶へむふきのたう探す

【評】子はまだ幼いのかもしれない。お見舞いに春の気配を届けたい、という純真な心。ふきのとうを探すひときは作者親子にとつて良い思い出になったことであろう。母は笑いハンドル握ってポーズとる何枚も撮る返納の朝 上越市 小島 章子

【評】運転免許証の返納を決めた母。ハンドルの握ってポーズをとったり何枚も写真を撮ったりする姿から、運転好きなのがわかる。母の笑顔が場面を明るくしている。 手間かけて冬の下着のあべこべを着直す朝の冷えの身にしむ 京丹後市 鉄林 篤

【評】冷え込む朝。寝間着を脱いで少しでも早く着替えたいが、下着で手間取ってしまった。「身にしむ」に深い実感がこもる。 くずし字の春という字は寿に似るからきつとめでたい季節 会津若松市 真壁みどり

コース外遭難者から要請が湯沢方面にへりの飛行機 南魚沼市 堀口 順子

願わくば向田邦子の目が欲しい昭和の父を歌に詠むとき 札幌市 三浦公佐子

陽に向かい飛鳥川沿いゆく散歩今日一日の元氣下さし 奈良県 中堀 優

無秩序に発展させた街の地下錆びた水道管は悲鳴をあげる 泉佐野市 河合 陽子

宮崎へ日南線で一時間風の香りが毎月変わる 日南市 宮田 隆雄

後ろ手にリズムさびしく麦踏みよみがえりくる祖母との時間 垂水市 岩元 秀人

## 俵 万智選

かき針で手招きをしてやはらかな編み目の先に待つ春を呼ぶ 千葉市 小金森まき

【評】編み物をするかき針の動きを、春を手招きするところえた美しさ。小さなリアルから始まって、春という大きな季節にいたる流れも魅力的だ。結婚へ引っくり返すタイミング逃して恋が焦げないように 横浜市 山田 知明

【評】焦げるといふキーワードでつないだ恋とパンケーキの重ね合わせが面白い。結婚へ思いきるタイミングは、間違えるとうまくいかないのだ。 コッペパンに何を挟むか考へてまづは手に取る春のキャベツを 村上市 鈴木 正芳

【評】コッペパンは一年中あるものだけれど、そこに季節感を加えたところが魅力だ。地味なキャベツも、春は主役になれる。 充血も毛穴も補正されている造花のような選挙ポスター 千葉市 芍薬

夕暮れの石段の猫がわれを見る月からちよつと降りた顔して 仙台市 小野寺寿子

目の前を飛んでメジロは羽音までぶつかるとい近づいた春 横浜市 佐藤 隆司

寄せて引く波音聞けばよみがえる親と見し海子らと見し海 白河市 塚野 高志

僕だけが誘われてないデイズ二の写真が届くグループライン 東京都 富尾 なつ

突風に紙コップみな倒されてレジャーシートは春のパレット 東京都 石川 真琴

観覧車けふは止まりて静物画メンテナンスの人ら小さく 市原市 井原 茂明

## 黒瀬 珂瀾選

異次元の少子化対策どうなった炭酸の抜けたコップに飲み干す 新潟市 古泉 浩子

【評】政権は色々な施策を打ち出すが、私たちは言葉だけに踊らされずに、結果をしつかり確認することが大切なのでしょう。下旬に込めた一抹の皮肉がよく効いた一首です。ひと雨に露の蓋一斉に立ち上がり夕餉の天ぶら緑溢れる 奈良市 宮本 郁江

【評】春ですね。一斉に成長するフキノトウの鮮やかな緑が、食卓の上にも季節をもたらしてくれる。季節の色彩が季節の味覚へと一首の中で移ろう、すがすがしい歌です。△明殺△とふ語必要かもと思ふほどたやすく人を殺す世になり 武蔵野市 梶原 一人

【評】「暗殺」どころではなく、他国の要人をあからさまに殺害する現代。国際法をないがしろにする力とは何か、考えざるを得ない。多数派に靡けばこそ穏やかにいられるとは到底思えざる春 福生市 二瓶 利明

駅頭に軍歌を歌ひ出征の兄を送りし昭和のありき 野田市 青木 作郎

小枝踏む音に山路をふりむけば我を見つめる子鹿の瞳 大阪府 木村由里亜

格下押し出されたる大関の深き礼せり土俵下にて 太田市 松島 純

連れ立って応接室に籠りいる内部の人に出す内部の茶 大和郡山市 大津 穂波

愛されて育ったふりをする屋の紅茶に溶けぬ角砂糖ふたつ 安城市 唐沢 うに

コンビニで住民票を取得してごっそり欠けた月を見上げる 宇部市 常田 瑛子

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はわらび